

鉄鋼新経営

厳しさを増す市場に対応

——社長就任後、半年が経過した。
「就任時に掲げた『安全』『体感(ワンタッチ)』『ポトムアップ』『パット・ニュース』」

「社長就任後、半年が経過した。『就任時に掲げた『安全』『体感(ワンタッチ)』『ポトムアップ』『パット・ニュース』』」



佐竹 義宏氏

日本製造社長

注量が落ち込んでおり、好調なスタートとはいかなかったが、下期から回復して川崎工場は足元フル稼働になり、ホツとしている。

2025年4-12月期決算を振り返って。

「経常利益はおおむね公表通りとなった。半導体関連を中心に素材分野で受注量は増えている」

おり、近年の低操業で生産に係る内製化を進めてきたが、OEMや外注の復活も視野に入れ、旺盛なニーズを捕捉していき

「私はトップとする全社横断の『半導体向け開拓開発プロジェクト』(H.K.P.P.J.)を立ち上げた。中国や台湾を含めてコミュニケーションを重ねる」

「顧客数が増え、展示会出展を通じて光学系製品を扱うお客さまから採用に向けた検討、引き合いが始まっているなど、来期以降も期待できる」

作業、5軸加工機の新設による発泡スチロール型製作などを内製化しており、外注作業の9割以上を社内に取り組んでいる。多能工化は高稼働時

「福山は自動車分野が盛り上がりを見せており、加工装置向け鉄鋼製品は低水準の生産が続いている。一方で製鋼用鋼」

「横甲を通じた横断組織にし、フットワークを軽く、新規開拓などのスピードを高めた結果、今期における3D積層造形事業の売上高は対前期約

用推進チームを新設し、3D積層造形用粉末の拡販にも取り組んでいる」

「3Dプリンター活用推進チームの活動はどうか。」

「低熱膨張合金(L.E.X.(レックス))の販売状況。」

半導体向け鉄鋼品受注増

もの、これは来期以降の収益に反映されるため、今期の通期業績予想は変えていない。橋梁向け支承や建築物用柱脚などのエンジニアリング分野は引き続き堅調に推移している」

「川崎工場がフル稼働になった背景は、」

「需要が回復し、半導体製造装置向け鉄鋼品で受注量が大きく伸びて」

顧客数が増え、展示会出展を通じて光学系製品を扱うお客さまから採用に向けた検討、引き合いが始まっているなど、来期以降も期待できる」

「川崎工場と福山製造所の取り組みは。」

「川崎は低操業が続いていたため、外注作業の取り込みと、従業員の多能工化を推進してきた。中子の製作や仕上げ加工」

塊铸型やマイティバーの受注が堅調に推移しており、100-110%の稼働率となっている」

「低熱膨張合金(L.E.X.(レックス))の販売状況。」

「今期は300ト程度の出荷量を予定している。半導体分野で拡販するためにはH.K.P.P.J.を立ち上げ、また25年4月1日付で3Dプリンター活

3倍の水準に達している。見積もりを提出するスピードがアップするとともに納期が大幅に短縮しており、お客さまにも好評を得ている。メンバーは現行15人で今後、製造現場責任者を加えることと、さらなる品質の向上などに取り組む。国内最大級のパウダーベッド式金属3Dプリンターについては川崎への導入

「今期は300ト程度の出荷量を予定している。半導体分野で拡販のためにはH.K.P.P.J.を立ち上げ、また25年4月1日付で3Dプリンター活

「今期は300ト程度の出荷量を予定している。半導体分野で拡販のためにはH.K.P.P.J.を立ち上げ、また25年4月1日付で3Dプリンター活

大型3Dプリンター来月稼働

後、試運転・教育訓練などを経て、4月から工程生産に入る。自社鉄鋼品で使う3D積層造形の铸包み材(インナーキープ)製造に活用するほか、大型造形サイズ用の半導体製造装置向けを主体に3D造形製品の外部販売を推進し、10月にはフル生産にもっていく」

「製造現場におけるIoT、DXなどの導入も推進している。」

「スマートファクトリ」の一環として製造工程の省人化や自動化を進めており、これまで自動押し湯切断ロボットや溶接補修ロボット、砂型3D積層造形設備を導入している。この中で溶接補修ロボットを改造して自動クラインター機能を付加させる計画で、モノレールで採用する支承の加工に利用する。来期の上半期中での実用化を目指す。このほか3Dスキナー装置を川崎に2基、福山に1基をそれぞれ導入

しており、形状と寸法で品質保証体制を整え、お客さまが満足する品質を追求する。またタフレット端末を使ってペーパー化に取り組みむことも

「カーボンニュートラルへの対応は。」

「川崎は北陸電力から再生可能エネルギー由来の非化石証書を使った電力を購入していたが、24年7月には東京ガスから同証書を使ったガス購入を始めており、99.5%のカーボンフリーに達している。残り35トのCO₂排出量削減もカーボンクレジット購入でクリアし、来期には鉄造業界初となるカーボンニュートラル工場を実現する。製造プロセスにおける温室効果ガス排出量(GHG)をゼロとした鉄造品『GREEN CASTING』(NGS)は必要家へのPRを強化しており、初採用に向けて手応えを感じている」

「川金ホールディングス、清本鉄工との業務提携の進捗を。」

「順調に進捗している。川金ホールディングスがこれまでお客さまに納入してきた鉄鋼品のサンプル製作を3月から開始し、来期の上半期には品質調査である確性を実施する予定で、できるだけ早期に納入を開始したい。橋梁用支承などについても技術交流を始めている。清本鉄工とは工場見学などの技術交流を開始しており、資材品の共同購買などに向けて協議を進めている」(濱坂 浩司)